

苺品質向上対策について

令和3年3月

「暖候期品質対策」について

(肥料施肥について)

1. 「カリ」の施肥

目的は玉肥大・日持ち対策

「カリっと」を7日置きに1～1.5 kgを灌注処理

又は「ウルル2号」と同時施肥の場合は5～7日置きに300 gを灌注処理

徒長防止・玉肥大相乗効果には、「PKゴー」300 g 灌水処理

PK ゴーの葉面散布は、1500～2000 倍

ウルル18号(5-3-10)もカリ追肥には効果的です。

2. 「カルシウム」の施肥

目的は果実の硬果・日持ち対策

カル元気(カルシウム成分10%)を5～7日置きに2～3 kgを灌注処理

葉面散布の場合は、1,000 倍で5日置き

◎果実の硬化対策には、赤く熟れてからの施肥でなく開花期から定期的に施肥をします。

3. 「発根・根の充実維持」の施肥

目的はリンサン・カルシウム・微量元素の吸収促進・根の活性対策

アミクエを7～10日置きに5～10 kgを灌注処理

(栽培管理について)

芯葉の徒長や薄葉は、同化作用の低下となり果実の肥大や品質に影響しますので午前中のやや低めの温度管理や高温多湿(多雨)時はハウスを開けての管理を行いましょう。

◎「高温期品質対策は、施肥と合わせて適正な温度管理や電照調整を行います」

アグリ技研(株)